



# 宝塚第一中学校の風

～ みんなでつくる みんなの学校 一中 ～

令和2年(2020年)12月25日 発行

## そして、「上を向こう！」

こんな年だから…こそ、いましかできないことを

【校長：田川隆司】

昨年の今頃は穏やかな年の瀬を迎えようとしていました。志村けんさんの動物に向けるなんとも言えない「笑顔」に癒やされながら、進路選択の山場を迎える3年生たちを励ましていました。新型コロナウイルス感染症の拡大がこれほどまでに学校教育に影響してくるなんて思いもせず…。今の生徒たちには、「臨時休校」から始まった令和2年度でした。猛暑を乗り切り何とか2学期を終え、今度は寒さとともに新年を迎えようとしていますが、まだまだ厳しい生活が続きそうです。



さて、そんな年の瀬ですが、新年を少しでも明るく前向きに迎えるために、色々なところでひたむきに頑張っている人たちがいることを忘れないようにしたいですね。今年の夏は、本来なら「東京オリンピック・パラリンピック」が開催され、日本中、いや世界中がお祭り騒ぎになっていたはず。様々なアスリート達の悲喜交々(ひきこもごも)な舞台を目の当たりにして、中学生でも心が揺さぶられる年だったこと

でしょう。そんな大会を見えないところから支え、盛り上げる人たちも多かったはず。そのひとつが日本の誇る「花火」の世界。夏の風物詩ではありますが、様々な屋外イベントで年中見られるようになりました。しかしながら、観客が密になることを避けるため、大規模な夏の「花火大会」は次々に中止せざるをえませんでした。

### 「一瞬の輝きが、上を向く時間をくれる。」

空を見上げる人を、ふやしたい。花火は、そんな願いが込められて生まれました。

「花火大会」が本格的に始まったのは1733年。大飢饉や疫病など、災いが重なった翌年です。うつむきがちな世の中を少しでも励ますために、二大花火師「鍵屋」と「玉屋」は、色や大きさ、デザインなどに工夫を凝(こ)らし、技を競いました。華やかな花火に誘われて、人は夜空を見上げ、歓声をあげる。花火が照らしていたのはいつも、ひたむきに生きる人々でした。

このコピーに出てくる「花火大会」が、現在の東京「隅田川花火大会」だそうです。

息苦しい毎日がまだまだ続きます。私は長い長い戦いになるだろうと言ってきました。戦いが長くなれば人は疲れ「笑顔」を忘れてしまい、ともすれば下を向いてしまいがちですが、このコピーに出会った時、視野がパッと明るくなった気がしました。わずかな言葉で元気になれる。わずかな心遣いで人に優しくできる。そんな気がしませんか。制限されることはとても苦しいことかもしれませんが、みんなでアイデアを出し合い、少しでも「ものの見方・考え方」を工夫すれば、あたらしく楽しい時間も作れることがわかった一年だったように感じるのは私だけでしょうか。

冬休みも夏休みと同様、「命」を大切にしたいウイルスに負けない「体づくり」をしていくためにも、くれぐれも「規則正しい生活」を心がけましょう。学校生活とは異なる「自分づくりあげる生活」は、“いま”しかできないとても貴重な「体験」です。新しい年の3学期始業式に、心も体も一回り成長した子どもたちのステキな「笑顔」に出会えることを教職員一同楽しみにしております。

日	曜	学校行事	日	曜	学校行事
1	金	元日	16	土	NO部活★
2	土		17	日	★
3	日	学校閉鎖(12/29~1/3)	18	月	★
4	月	冬季休業(12/26~1/4)	19	火	
5	火	3学期始業式 職員会議	20	水	新入生保護者説明会
6	水	給食開始 生徒会各部委員会 実力考査<1・3年>、学習理解度調査<2年>	21	木	
7	木		22	金	
8	金		23	土	
9	土		24	日	
10	日		25	月	
11	月	成人の日	26	火	
12	火		27	水	口座再引落日
13	水		28	木	
14	木		29	金	
15	金	震災祈念集会(避難訓練)	30	土	
			31	日	

◎2月中の主な行事

- ・私立高等学校入学試験(10水・11木)
- ・公立高等学校推薦・特色選抜入学試験(16火・17水)
- ・特別支援学校入学試験(22月)
- ・新入生制服採寸(14日)
- ・学年末考査(24水~26金)

◆中体連「新人大会」等 結果

- 【第45回宝塚市民ソフトボール大会】
- ◆ソフトボール部 準優勝
- 【兵庫県中学校新人バスケットボール競技大会】
- ◆女子バスケットボール部 第3位



■宝同協「ハーとん じんけん作品賞」

- 入 選 (作文部門) 1年: 疋嶋夏実 2年: 秋山 愛 3年: 吉田佑人
- (標語部門) 1年: 下司恭子 1年: 兼松勇瑠
- 2年: 諸岡瑛太 2年: 田中陸斗
- 3年: 駒走花菜 3年: 亀井紗季
- (ポスター部門) 2年: 小川真歩
- (写真部門) 3年: 井原 潤

